

2008 年国際衛生年に関連した環境省の取組について

1. 第 10 回水と衛生に関する諮問委員会

(1) 水と衛生に関する諮問委員会の概要

2004 年に、水と衛生分野における国際社会の取組に関し、国連事務総長及び国際社会に提言を行う機関として、「水と衛生に関する諮問委員会」が設立された。初代議長は故・橋本龍太郎元総理であり、2006 年 3 月に「水と衛生に関する行動計画」(後に「橋本行動計画」と改名)を発表した。

諮問委員会は、2006 年 12 月からオランダ皇太子ウィレム・アレキサンダー皇太子殿下が議長にご就任、2007 年 11 月から我が国皇太子殿下が名誉総裁にご就任されている。第 10 回諮問委員会は 2008 年 5 月 26 日から 28 日まで東京で開催された。(日本での開催は、第 2 回に引き続き 2 回目)

(2) 「日本との対話」における浄化槽の紹介

「橋本行動計画」の 1 分野である「衛生」に関し、日本発の技術であり、優れた分散型処理技術である浄化槽について、発表を行った。生活排水処理施設である浄化槽については、海外で広く使われているセプティックタンクと異なり、嫌気性処理、好気性処理及び消毒によるし尿と雑排水の衛生的で良好な処理を行うことができること、途上国が求める処理水の水質目標と費用に応じて様々な技術的解決策があることを説明した。

諮問委員会出席者からは、途上国の小規模集落における衛生問題を解決するための有効な手法として、高い関心をもって受け入れられた。



2. 浄化槽に関する海外への情報発信

5 月に神戸において行われた G 8 環境大臣会合と連動して開催される「環境フェア in KOBE」において、浄化槽の構造、機能等に関する情報について紹介を行った。

また、今後の予定として、「水と持続可能な開発」をテーマとして開催されるスペイン・サラゴサ国際博覧会において、6 月 22 日から 7 月 13 日までパネル等の展示、北海道洞爺湖サミットにおける日本国の技術紹介の展示の一つとして浄化槽の紹介を実施予定。